

技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	安全・防災	インフラDX	維持管理	環境	コスト	品質	(該当分類に○を付記)
技術名称	IP無線機「KBX-P51」			担当部署	通信ICT事業部		
NETIS登録番号	なし			担当者	林 梨香子		
社名等	株式会社アクティオ			電話番号	080-6177-0645		
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機						
	近年、業務用無線通信市場では、従来の簡易無線機から携帯電話網を利用したIP無線への移行が急速に進んでいる。自治体・民間企業における広域通信ニーズの高まりを背景に、設備投資を抑えながら全国規模で利用できるIP無線への需要が増加している。 一方で、既存市場は先行メーカーが高いシェアを占めており、新規参入には差別化された機能や新たな価値提供が求められていた。そこで当社は、長年培った無線通信技術とサイエンスアーツ社との連携によるクラウドサービスを融合し、新たなIP無線プラットフォームとして「KBX-P51」の開発に着手した。						
	2. 技術の内容						
	本技術は、LTE通信網およびWi-Fiを活用した広域通信対応のIP無線システムである。端末にはデュアルSIM構成を採用し、複数キャリアへの対応や通信経路の冗長化を実現している。また、GPSによる位置情報管理、Bluetooth接続、自動翻訳機能、音声テキスト化機能など、業務効率向上に寄与する先進機能を搭載した。 さらに、クラウド型コミュニケーションサービスとの連携により、無線機とスマートフォンアプリ間でのシームレスなグループ通信を実現し、従来の業務用無線機では困難だった柔軟な運用を可能にした。						
	3. 技術の効果						
本技術の導入により、従来必要であった中継局や専用通信設備を設置することなく、日本全国の携帯電話通信エリア内で広域通信が可能となった。これにより、導入コストおよび運用コストの低減を実現するとともに、災害対策、施設管理、物流、交通機関など広域にわたる業務において通信の効率化を図ることができる。また、位置情報共有や音声データ活用機能の実装により、現場管理の効率化、安全性の向上、多言語環境での円滑なコミュニケーションに貢献している。従来の「通話手段」から「業務支援プラットフォーム」への進化を実現した点が大きな特長である。							
4. 技術の適用範囲							
本技術は、広域かつ高い可用性が求められるさまざまな業務分野で利用可能である。 自治体防災部門・消防団、物流・運送業、空港・鉄道など交通インフラ事業者 建設・土木現場、工場・プラント施設、ホテル・商業施設、イベント運営・警備業務など、 多地点・広域でのリアルタイム通信が必要な業務全般に適用できる。							
5. 活用実績							
2026年7月発売のため、実績はまだない。							

6. 写真・図・表

デュアルSIMとWi-Fiに対応、自動切替で最適な回線を選択

デュアルSIMでのLTE接続とWi-Fi接続を使用することで、最大3つの通信回線を自動切り替えで利用可能。通信状態が不安定になった場合でも、圏外になる前により良好な回線へ自動的に切り替わり、安定した通信を確保できます。



通話音声を自動翻訳 (オプション)、複数言語への一斉翻訳が可能

自分の話した内容が、相手の言語に合わせて翻訳され、相手に音声と文字で届きます。話せる人数は無制限。100名でも1000名でも、複数言語への一斉翻訳が日本中どこにいても可能です。

